

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業提案書要約

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	タイ
2. 事業名	妊産婦・新生児死亡の予防を目的とした救急時の移動式胎児心拍計導入と産科一次スクリーニング診断導入と一次医療人材育成による周産期死亡改善事業
3. 事業の背景と必要性	JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）として平成26年2月から「タイにおける妊産婦管理及び糖尿病のための遠隔医療支援プロジェクト」に取り組んできたが、その活動において、産科医のいない地域において、モバイルCTGにより測定した情報を産科医と共有することができるモバイルCTGシステムを利用した妊婦検診を実施するとともに、妊婦の救急搬送にも活用できるようになった。このプロジェクトでは、県内の3カ所のコミュニティ病院を対象として実施してきたが、これらの実績を踏まえ、県全域を対象としてCTGシステムの活用を図り、母子保健サービスの向上に繋げたい旨、チェンマイ県からの要請があった。
4. プロジェクト目標	遠隔医療ネットワークシステムを活用した保健・医療システムを導入することにより、対象地域における母子保健サービスの向上を図る
5. 対象地域	チェンマイ県全域
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	対象地域の妊産婦・新生児（年間：妊産婦 20,000 人、新生児 20,000 人） 医療従事者（総合病院、コミュニティ病院、Health Promoting Hospital）
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> - 地域の一次医療施設における妊婦検診への NST 検査*の実施 - チェンマイ県における産科救急搬送時の妊産婦・新生児死亡数の半減 - 母子保健分野における地域医療従事者の人材育成 <活動> 1-1. チェンマイ県にあるコミュニティ病院に移動式胎児心拍計プチ CTG システムを導入する。 1-2. 各コミュニティ病院において、プチ CTG システムの活用による NST 検査を実施できるようにする。 1-3. 各コミュニティ病院におけるプチ CTG システムの活用に関する運用体制を整備する。 1-4. 妊婦健診の実態調査を行うとともに妊婦健診の受診率を向上させる。 1-5. 決められた妊婦健診を適正に実施できるように妊婦を対象とした広報活動を行う。 2-1. 妊産婦の救急搬送に関する実態調査を行う。 2-2. プチ CTG システムの活用による救急搬送体制を確立する。 3-1. 母子保健サービスの向上を図るため、香川県内における周産期医療の現況を紹介し、最新技術を習得するための研修を実施する。 3-2. プチ CTG システムの自主運用を実施するための運用マニュアルを作成する。 3-3. 各コミュニティ病院等の看護師等産科医療従事者に対し、システム機能及び操作等を習得させるための研修を行う。 （*NST 検査：ノンストレステストの略（陣痛の無い状態での胎児の心拍数を調べる検査））
8. 実施期間	（西暦）2018年5月～2021年9月（3年5ヵ月）
9. 事業費概算額	62,630 千円
10. 事業の実施体制	日本側：香川大学、NPO法人 e-HCIK が中心となって組織する「遠隔医療支援プロジェクト実行委員会」 タイ側：チェンマイ県保健省の管轄下にある地位各病院の産科医及び公的医療機関の周産期医療従事者
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体名）	遠隔医療支援プロジェクト実行委員会（香川県）
2. 活動内容	APT（アジア・太平洋電気通信共同体）の資金提供による APT-J2 及び J3 プロジェクトにて周産期医療ネットワークシステムの試験運用を実施してきた。 平成26年2月から3年間、JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）による「タイにおける妊産婦管理及び糖尿病のための ICT 遠隔医療支援プロジェクト」を実施してきた。

（注：A4 用紙 **1 枚以内**にまとめてください）